

支援に役立つ日本語教室

災害時に外国人が支援者になるための日本語教室活動



国際交流NGO

Viva おかざき！！

テーマ決めの背景とねらい

- 災害時通訳ボランティア養成講座に参加した外国人参加者
「支援する側になりたい！」
「災害の勉強がしたい！」
- 災害時に外国人も支援者になれるというイメージづくり



活動構成

第1回

防災の
イメージづくりと
基礎知識を学ぶ

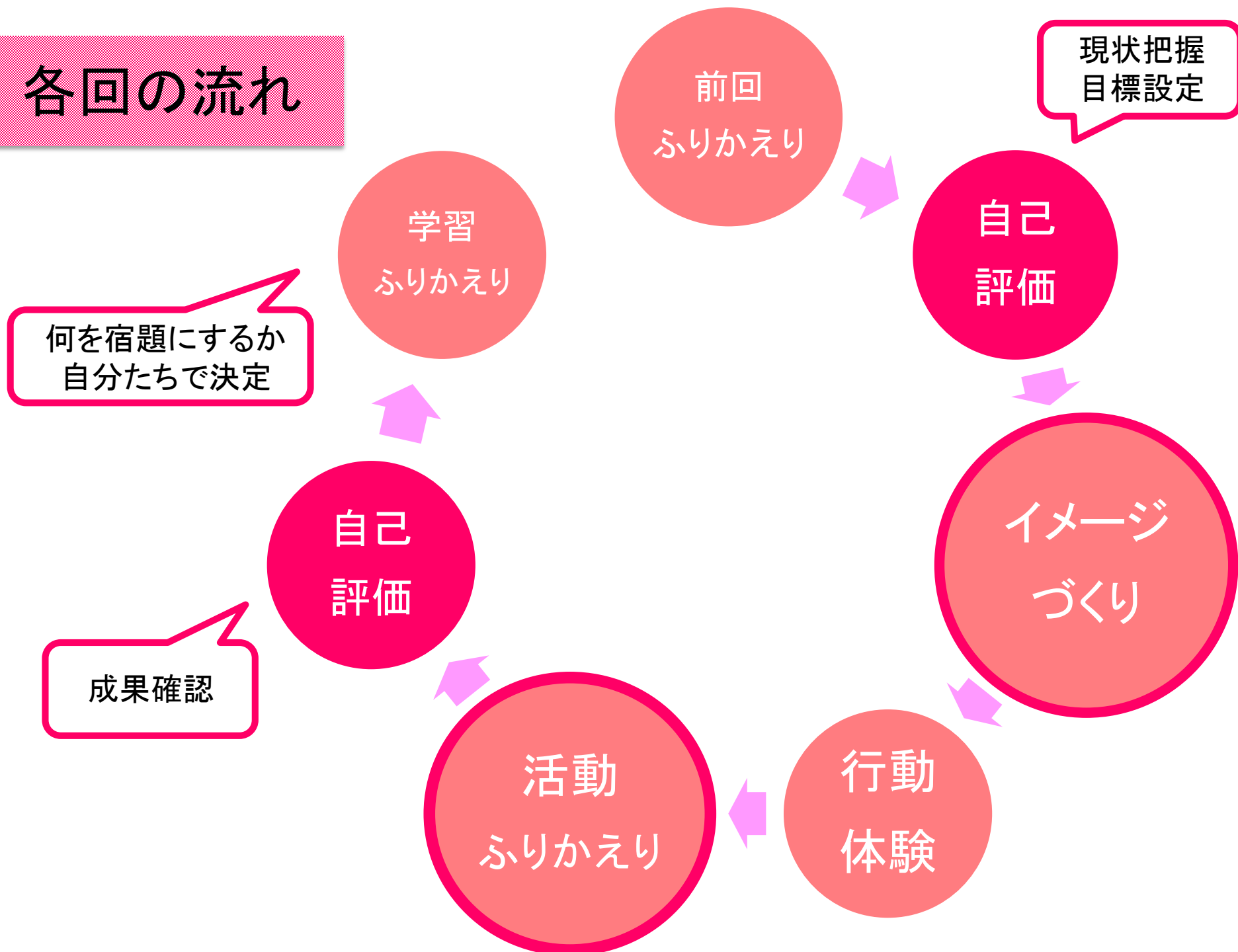
第2回

避難所生活を
疑似体験する

第3回

ふりかえりと
提言

各回の流れ



第1回 防災のイメージづくりと基礎知識を学ぶ



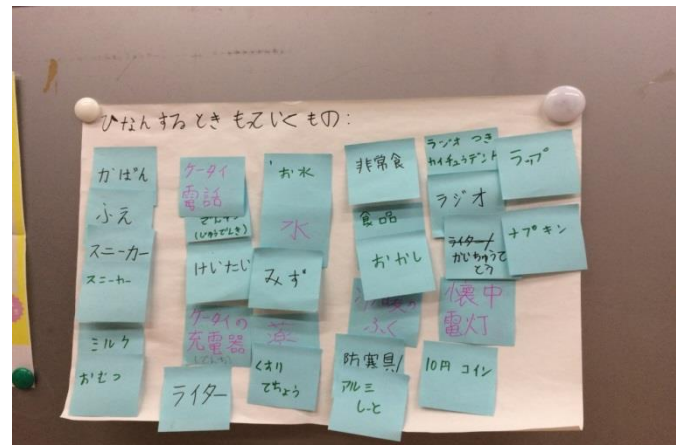
震災のビデオを見ました！地震が起きたらどうする??



岡崎市の防災ガイドブックで学習しました！



「自宅」と「外出先」では避難方法が違うんだ！



避難に必要なものをまとめてみました！

第2回 避難生活を疑似体験する



防災危機管理課職員に避難所はどんなところか話を聞きました！
日本の避難所は無料なんだ！！びっくり！！



仮設テント・簡易トイレを組み立てました！
床が硬くて寝にくいな、、、。



避難所に行かなくても済むようにするには？
普段からの備えが大切！



避難者名簿を書きました！世帯主って何？



外国人が支援者になるために必要な体制は？
やさしい日本語・書類にふりがなが欲しい！！

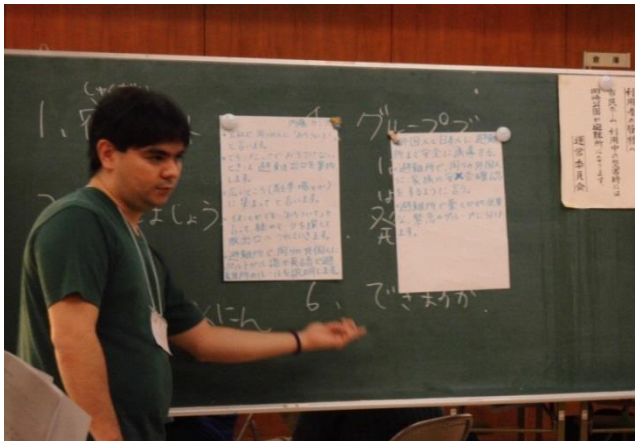
第3回 ふりかえりと提言



1日目・2日目で学んだことを日本語パートナーと復習します。
内容盛りだくさんで思い出せない、、、



災害に関する単語は難しい表現がいっぱい！
やさしい日本語に直すワークをしました！！



外国人が支援できることを書きます。
みんなの前で発表しました！



こちらは現役通訳さん。
さすか目指す姿をイメージさせてくれます！



緊張しましたが、みんなの発表を聞き、
自分にもできることがあることがわかりました！

成果と課題

- 学習者の声「とてもためになる授業」
→講師・日本語パートナーがとても親切に教えてくれ、多くの日本語表現を学び、話すことのできる授業。継続希望。
- 実際の声から活動を設定→受講者の7割が出席率8割超
- 次につなげる活動の必要性
「外国人もボランティアをする機会が欲しい！」
→日本人も参加する災害ボランティアコーディネーター研修に参加できないか打診中
- 外国人の声を市役所に伝える必要性
→書類のふりがな、絵や写真を多用した説明、専門的知識の「やさしい日本語」化
- 学習者の災害に関する事前知識の把握